

安全報告書

2025年

伊予鉄バス株式会社

IYOTETSU

目 次

1.	基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 1
	「運転安全規範」綱領	
2.	当社の安全管理体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 1
	(1) 組織図	
3.	2025年度安全目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 2
	(1) 各管理者の役割	
	(2) PDCA サイクルによる安全マネジメント体制の構築	
4.	2025年度の事故等の発生状況・・・・・・・・・・	P 3
	(1) 2025年月間安全目標	
	(2) 重大事故発生件数	
	(3) インシデント（事故の兆候）	
	(4) 行政指導等	
5.	輸送の安全確保のための取組み・・・・・・・・・・	P 4
	(1) 安全に関する投資	
	(2) 教育訓練	
	(3) EVバスに関する投資	
	(4) 自動運転レベル4に関する投資	
	(5) 事故再発防止対策	
	(6) テロ・バスジャック対策	
	(7) 感染予防対策	
	(8) その他	
6.	輸送の安全に関する内部監査について・・・・・・・・	P 2 0
	(1) 監査目的	
	(2) 実施者	
	(3) 実施内容	
	(4) 監査結果	
7.	安全管理規程・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 2 1
8.	安全報告書へのご意見に対する連絡先・・・・・・・・	P 2 1

1. 基本方針

バス事業においてはバス運転安全規範を定め、以下の綱領を安全意識における軸として「安全輸送の確保・絶対無事故」に取り組みます。

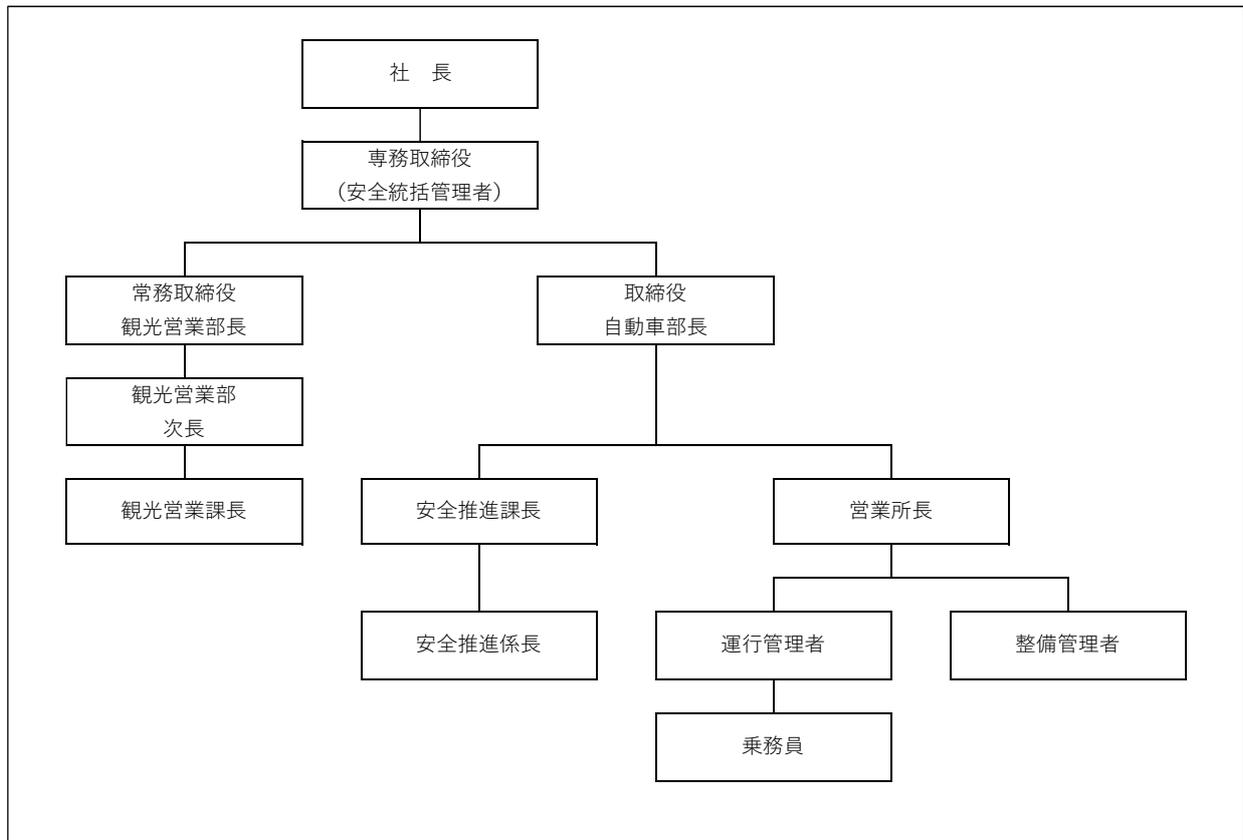
【運転安全規範】綱領

1. 安全は輸送業務の最大の使命である。
2. 安全の確保は規程の厳守から始まり不断の修練によって築きあげられる。
3. 確認の励行と連絡の徹底は安全の確保に最も大切である。
4. 安全確保のためには職責をこえて一致協力しなければならない。
5. 疑わしいときは手落ちなく考えて最も安全と認められるみちを採らなければならない。

2. 当社の安全管理体制

平成18年10月に「安全管理規程」を制定し、社長をトップとした安全管理組織を構築し運用しております。

(1) 組織図



※安全統括管理者：専務取締役 竹中由紀夫

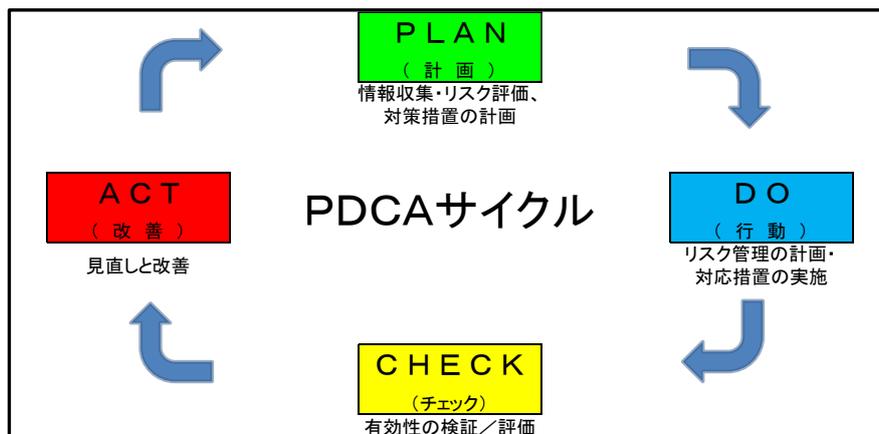
(2) 各管理者の役割

代表取締役社長	輸送の安全確保に関する最終的な責任を負う。
専務取締役 (安全統括管理者)	輸送の安全確保に関する業務を統括する。
常務取締役 観光営業部長・次長	安全統括管理者を補佐し、貸切バスに関する事項を統括する。
取締役 自動車部長	安全統括管理者を補佐し、自動車部に関する事項を統括する。
各課長	安全統括管理者の指揮の下、安全に関する事項を統括する。
各営業所長	担当バス路線に関する事項を統括する。
グループ経営本部長 (㈱伊予鉄グループ)	輸送の安全確保に必要な設備投資、財務、要員に関する事項を統括する。

3. 2025年度安全目標

(1) PDCAサイクルによる安全マネジメント体制の構築

経営トップから現場の従業員に至るまで全員が一丸となって「安全、安心、信頼されるバス」を目指し、「計画・行動・チェック・改善」を継続して行い、安全性の向上を図る安全マネジメント体制を構築しています。また、事故惹起者に対しては、管理部門と現場が合同で再発防止のための検証会を実施しておりますし、共有が必要な事故やヒヤリハットについては全乗務員がそのドライブレコーダーの映像を閲覧しています。



(2) 2025年月間安全目標

2025年 自動車部 月間安全目標	
月	安全目標
1月	離席時の「サイドブレーキよし」の「指差し呼称」90%以上
2月	バス停・信号発車時の「発車します」の完全実施
3月	乗降中に「ドア操作レバーに触れない」100%
4月	笑顔を添えた「ありがとうございました」の実施90%以上
5月	二輪車追い越し時の「2m以上安全確認」完全実施
6月	バス停発車時の「3秒間・車内安全確認」実施90%以上
7月	
8月	左折時の「一時停止・安全確認」実施80%以上
9月	後退時の「指差し確認」実施90%以上
10月	エコドライブの徹底(総合評価「A」)80%以上
11月	踏切での「左右・指差し確認」90%以上
12月	離席時の「サイドブレーキよし」の「指差し呼称」100%

4 2024年度の事故等の発生状況

2024年度における四国運輸局への届出等は下記の通りです。

(1) 重大事故発生件数

目標件数	発生件数	死傷者(死亡者)
0件	0件	0名(0)

(2) インシデント(事故の兆候)

四国運輸局へのインシデント報告はありませんでした。

(3) 行政指導等

行政指導等の処分はありませんでした

5. 輸送の安全確保のための取組み

(1) 安全に関する投資

① バス車両

ヒヤリハットや事故情報の集約および、担当者以外への情報共有に有効であるドライブレコーダーを全車両に導入し、貸切バス車両には赤外線カメラを増設いたしました。また、カメラで取得した映像は、全運転士に対する安全指導に活用しております。

高速バス・貸切バス車両の新車については、衝突被害軽減ブレーキシステムや車線逸脱警報装置等を装備した先進安全自動車（ASV）を継続的に導入し、また旧型車両については、後付安全装置としては初めて世界基準をクリアした「モービルアイ」（衝突と車線逸脱を未然防止する警報装置）と、「居眠り検知装置」の装着を進め、ハード面での安全の拡充を図っております。

【ドライブレコーダーの映像】 ※デジタルタコグラフ機能付き



【先進安全自動車であることの車体への表示】



【ドライバー異常時対応システム（EDSS）】

ドライバーに急病等異常が発生した場合に、ドライバー自身又は乗客がスイッチを押すことで、車両が制動をかけるシステム。

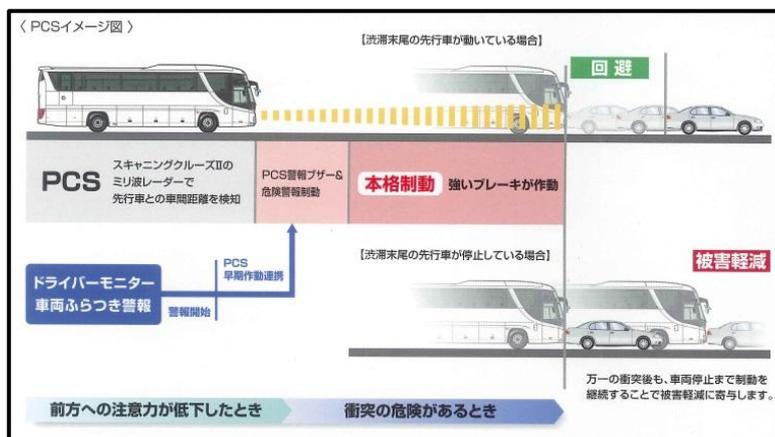
■ 高速バス・貸切バス



■ 一般路線バス



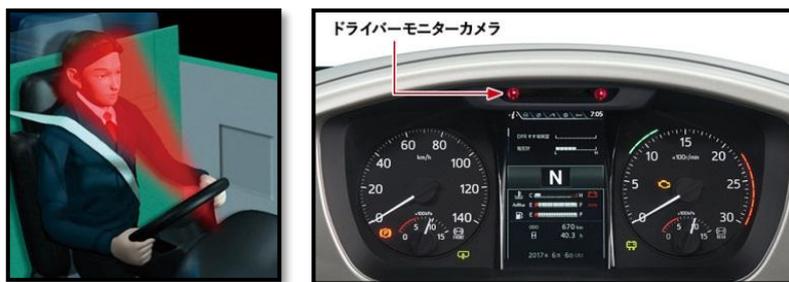
【衝突被害軽減ブレーキシステム】



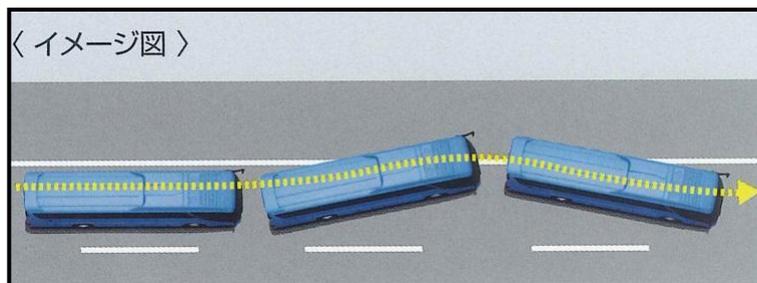
【車線逸脱警報装置】 車線からの逸脱を検知し警告



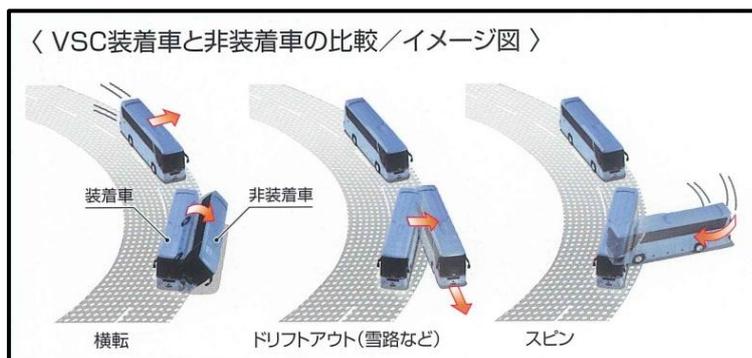
【ドライバーモニター】 顔や眼の状態から注意力低下を検出し警告



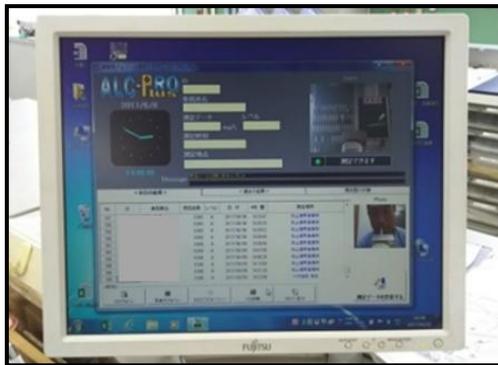
【車両ふらつき警報】 車両のふらつきを検出し警告



【車両安定制御システム】 滑りやすい路面やカーブでの危険回避補助



【営業所設置のアルコール検知器】



【携行型アルコール検知器および画像送信用スマートフォン】



【ナスバネット】※一般適性診断



教育訓練用の機器として、同業他社への視察を参考に「アイマーク・レコーダー」を導入し、乗務員の安全確認指導を強化いたしました。

この「アイマーク・レコーダー」は、運転中に視線がどこを見ているかを記録することが可能な装置で、乗務員に装着し実際に運転する路線を走行させることで、運転者の特性や癖を知ることで安全意識の向上に繋がっています。また、右左折時に車両の内側の安全確認や、反対方向の後方のオーバーハングの振り出し確認を確実にしているかを記録された画像を見ながら、本人への指導が可能となり、事故削減へとつなげてまいります。

【アイマーク・レコーダー】



【実際記録された運行画面】



【モービルアイと居眠り検知装置】



②バス車両以外

飲酒運転の絶対撲滅のため、全営業所においては精度の高いアルコール検知器を使用した確実な対面点呼を実施し、対面点呼が実施できない高速・貸切バス運行時の遠隔地においては、携行型アルコール検知器による検査画像をスマートフォンで送信することにより厳正な検査の徹底を図っております。更には、宿泊先への飲酒の抜き打ち検査を実施することで、遠隔地での飲酒自体の未然防止にも努めております。

また、インターネットで運転適性診断が可能なナスバネットを営業所内に設置することにより、定期的に全運転士が受診し、自身の運転に対しての見直しを行い、より一層の安全運転意識の向上を図っております。更に、勤務中における運転士のスマートフォン操作を防止するため、緊急連絡用の携帯電話等を配備し、私物に関しては車内持ち込み禁止としております。

(2) 教育訓練

運転士に対して入社時の新人研修から始まり、その後3ヵ月・6ヶ月・1年講習、高速バス講習、貸切バスによる順拝講習と段階的な講習を計画しております。また、毎年定例の訓練として、運転士全員に対して年2回の事故防止・接遇訓練を実施しており、2024年度の上期と下期に「コンプライアンス研修、事故防止訓」また「実設訓練」では危険予知訓練・山岳雪上訓練・たこつぼ訓練や、コンプライアンス教育を中心に訓練いたしました。

更に、運行管理者に関して法令で2年に1度の一般講習の受講義務がありますが、弊社では全員が毎年受講しており、常に安全意識の高揚を図っております。

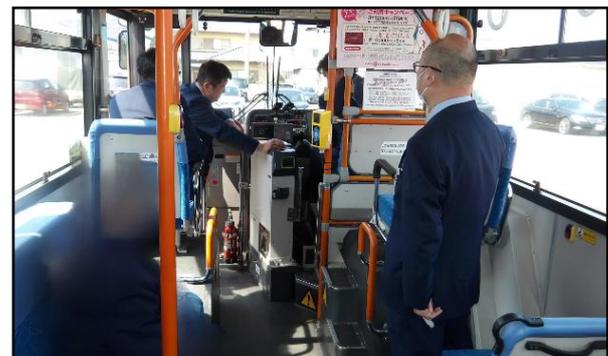
また、年末年始の輸送等に関する安全総点検、春と秋の全国交通安全運動、当社独自で定めております運転事故撲滅週間（9月21日～9月30日）においては、点呼時における安全宣言の実施等、事故防止の取組みをより一層強化しております。

輸送の安全に関する投資の実績額

(単位：千円)

項目	実績額	実施詳細
教育・研修費	221	コンプライアンスセミナー 事故防止研修（年2回）など
健康対策	3,159	定期健康診断受診、ストレスチェック 眼科ドック、SAS検診、塩浴（熱中症対策）
車両更新他投資	633,667	車両更新（EV・高速・貸切） 充電設備、動向管理システムなど
合計	637,047	

【新人運転士講習】



【チェーン脱着講習】



【貸切講習】



【安全運転中央研修】



接遇訓練・事故防止訓練（上期）

■実施日： 2024年 8月 1日 ～ 9月 28日

■場 所： 松山斎院営業所 2階研修室および屋外

■参加者： 全運転士（運行管理者含） 230名

■内 容： 【座学】

- ・ 接遇訓練（映像）「終わりにしようバスクレーム」
- ・ オーバーハングの振り出しについて
- ・ 踏切事故防止について
- ・ 事故発生マニュアルの再確認
- ・ ラジエーター液残量確認時の注意点
- ・ 自社の映像を活用した KYT トレーニング
- ・ 「改善基準告知」の改正について
- ・ 非常用信号用具、非常口、消火器の取り扱い
- ・ 乗降時の安全確認
- ・ 事故発生時の対応訓練
- ・ 乗客の安全を確保するために

【実設訓練】

- ・ たこつぼ運転 技術訓練

【座学研修】



【実設訓練】



接遇訓練・事故防止訓練（下期）

- 実施日： 2025年 1月 16日 ～ 2025年 3月 31日
- 場 所： 松山室町営業所 2階研修室および屋外
- 参加者： 貸切運転士（運行管理者含） 134名
- 内 容： **【座学】**
 - ・ 信号のある交差点を左折する際の危険予知
 - ・ 事業用自動車を運転する場合の心構え
 - ・ 2024年度の事故発生状況について
 - ・ 乗客の安全を確保するために留意すべき事項（シートベルト）
 - ・ 事故発生マニュアルの再確認
 - ・ チェーンの装着方法
 - ・ 非常用信号用具、非常口、消火器の取り扱い
 - ・ 健康管理の重要性について
 - ・ 異常気象時の対応方法について
- 【実設訓練】**
 - ・ 山岳道路走行訓練（貸切車両使用）

【座学研修】



【実設訓練】





(3) EVバスに関する投資

脱炭素に向けた取り組みと原油高による燃料費の高騰に対応するために、環境面や静音性のプラス効果が高い、EVバスを2022年12月に1台、2024年2月・3月・11月・12月に15台、2025年2月、3月に5台の計21台導入しました。

また夜間や雨天時などの視界の悪い状況でも、「アラウンドビューモニター」や電子ミラーで死角を鮮明に確認することができます。

【EVバス】



【EVリムジン】



【アラウンドビューモニター】



【電子ミラー】



【自動運転レベル4】

エリアや速度など特定条件下で完全自動運転が可能となる。



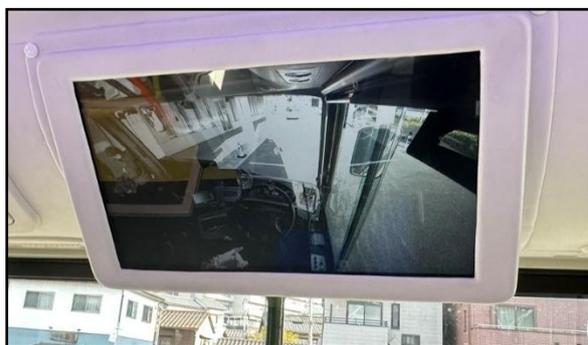
「全国初 自動運転レベル4 2025. 12. 25 運行」



「自動運転中はハンドル操作なし」



「一般公道で国内最速の 35 キロで運行・障害物や横断歩道付近に歩行者発見すると減速する」



「運転席を映すモニター画面が後部天井に設置」



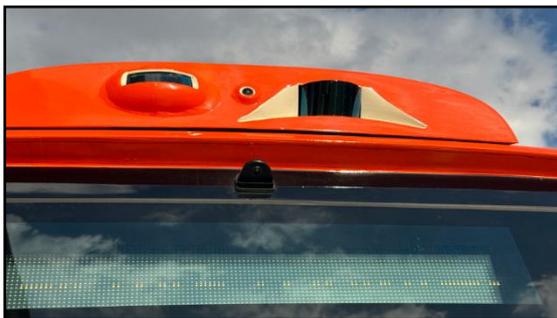
「リアルタイムで速度・運行状況を表し
認識した障害物などをモニターに表示」



「自動運転中、ハンドルは自動操作される」



「行き先表示パネル」



「約 40 個のレーダーやライダー、カメラなどの車内外センサー類が搭載されている」



「常時車内監視カメラにより安全のために運行状況を遠隔監視している」



南海トラフ地震・津波避難誘導訓練

- 日時 2025年 5月 19日(月) 14:00～
- 目的 近い将来に発生が予想されている、南海トラフ地震などの非常事態発生時を想定し、緊急時の連携体制を確認いたしました。
- 概要 一般乗合車両および貸切バス車両全車に導入したIP無線と、バスの位置や運行経路が解るバスナビゲーションシステムを活用した、情報伝達訓練を実施しました。
 運行中に地震が発生した想定で、車両から運行管理者へ被害状況等の報告を受け、運行管理者から関係各所に伝達指示を実施。

【運行管理者】



【乗務員】



交通バリアフリー疑似体験研修会

- 実施日： 2025年 3月 4日 13:30~16:00
- 場 所： 松山斎院営業所 2階研修室および屋外
- 参加者： 運転士（運行管理者含） 10名
- 目 的 交通バリアフリー対策事業およびバス輸送改善対策事業の一環として、NPO 法人「わおん」の協力を得て、高齢者疑似体験を通して輸送サービスの向上と安全性の確保に努めることを目的とする。
- 内 容：
 - ・老化のメカニズムおよび注意事項の説明
 - ・疑似体験セットを装着し、バスの乗降体験
 - ・認知サポーター研修
 - ・体験後の参加者によるディスカッション

【座 学・類似体験によるバス乗降】



2024年度 教育訓練実績			
実施時期	内 容	備 考	
2024年	4月	一般路線講習	新人1年講習・新居浜線講習
		安全講習	衛生管理者講習
		高速路線講習	福山線・大阪線・神戸線
	5月	一般路線講習	新人1年講習・新居浜線講習
		貸切講習	貸切運転士選任講習
		高速路線講習	神戸線・岡山線・高知線
	6月	運行管理者基礎講習	自動車事故対策機構
		一般路線講習	入社3ヶ月講習・入社6ヶ月講習
	7月	高速路線講習	岡山線・神戸線・高松線
		安全講習	運行管理者一般講習
		防災研修	原子力防災研修
	8月	一般路線講習	新居浜線
		高速路線講習	高松線
		安全講習	運輸安全マネジメント(ガイドラインセミナー・リスク管理セミナー)
		運行管理基礎講習	自動車事故対策機構
		接遇・事故防止訓練	接遇訓練・事故防止訓練・危険予知トレーニング・実設訓練
	9月	高速路線講習	大阪京都線・神戸線・高松線
		一般路線講習	入社3ヶ月講習・入社6ヶ月講習
		安全講習	運行管理者一般講習・衛生管理者講習
	10月	一般路線講習	新居浜線
		高速路線講習	神戸線
	11月	一般路線講習	入社3ヶ月講習
		貸切講習	貸切運転士選任講習
		安全講習	運行管理者一般講習
高速路線講習		福山線・高松線・徳島線	
12月	安全講習	運輸安全マネジメント(リスク管理セミナー)	
	安全講習	運輸安全マネジメント(ガイドラインセミナー)	
2025年	1月	貸切講習	巡拝講習
		高速路線講習	福山線
		チェーン着脱講習	冬用タイヤチェーン着脱講習
		安全講習	運行管理者一般講習
		運行管理者基礎講習	自動車事故対策機構
	2月	高速路線講習	大阪京都線
		防災研修	運輸安全マネジメント(運輸防災マネジメントセミナー)
		一般路線講習	入社6ヶ月講習・入社1年講習
		安全講習	運行管理者一般講習
		事故防止訓練	事故防止講習・危険予知トレーニング・実設訓練
	3月	一般路線講習	入社3ヶ月講習・新居浜線講習
		安全講習	運輸安全マネジメント(内部監査セミナー)
		運行管理者基礎講習	自動車事故対策機構

※上記以外に、新人運転士の入社に合わせて研修を実施。

(4) 事故再発防止策

事故惹起者に対しては、添乗指導やドライブレコーダーの映像を使用した事故防止検証会を実施し、再発防止に努めるとともに、その報告書や映像により全運転士で情報の共有を図っています。

また、月一回の定例所長会においては各営業所からのドライブレコーダーによるヒヤリハット情報を収集・解析するなど、事故の未然防止にも取り組んでおります。

(5) テロ・バスジャック対策

①対応

緊急時対応訓練等の実施により、発生時の対応についても周知しておりますし、繁忙期等の輸送需要が集中する時には、営業所内の巡回を定期的実施するなど、より一層の強化を図っております。

②ポスター、チラシによる注意喚起

主要バス停、営業所等にポスターを掲示し、不審物・不審者の発見、通報についてお客様のご協力をお願いしております。

(6) 感染予防対策

①乗務員は、出勤時に検温（体温測定）および、健康状態の確認を実施。

②従業員のマスク着用、手洗い・うがいの徹底。

- ・バス運転士は、1運行ごとの帰着時に手洗い・うがいを励行。
- ・マスク着用は本人の希望による。

※2023年5月8日より、新型コロナウイルスの位置づけが、「2類」から「5類」に変更された。

【抗ウイルス・抗菌剤】



【オゾン脱臭器】



(7) その他

①「Jアラート等によるミサイル発射情報受信時の対応要領」を策定し、万が一の有事にも備えています。

②乗務員の健康管理について

年2回の健康診断の受診に加えて、SASスクリーニング検査及び脳ドック検診、新たに眼科ドックを5年に一度実施しております。

6. 輸送の安全に関する内部監査について

(1) 監査目的

定期的に安全管理体制を自己確認することにより、その課題および問題点を明らかにすることを目的として、毎年実施しております。

(2) 実施者

グループ関連会社 内部監査員

(3) 実施内容

運輸安全マネジメント制度において求められる、輸送の安全に関して展開されるべきPDCAサイクルの確認を主とした監査を実施し、各営業所の安全管理体制を検証いたしました。

- トップインタビュー 2024年 9月 24日
- 安全統括管理者インタビュー 2024年 9月 24日
- バス部門内部監査 2024年 11月 26日

(4) 監査結果

安全管理体制が構築されており、組織全体として安全意識の向上が図られているとの評価を受けました。

【トップインタビュー】



【安全統括管理者インタビュー】



【バス部門内部監査】



8. 安全報告書へのご意見に対する連絡先

当社の安全への取り組みに対するご意見をお寄せください。

info@iyotetsu.co.jp